



10 Saitama Tobu Fire Bureau th Anniversary

埼玉東部消防組合 10周年

久喜市を含む4市2町で構成される埼玉東部消防組合消防局は、平成25年4月の発足から今年で設立10周年を迎えました。私たちの普段の暮らしを常に見守り、絶えず鍛錬を積み重ね、「万が一」のときにはすぐに駆けつける——。住民の生命とまちの平和を守るため、日々現場の最前線に立つ方々の声をお届けします。

profile
 構成市町：加須市、久喜市、幸手市、白岡市、宮代町、杉戸町
 消防署：6署・7分署・1出張所・1救急ステーション
 職員数：606人（令和4年8月7日現在）

“身近なところから 防災への意識を”



担当業務
 消防水利等の点検、立入検査、住民訓練指導、火災・救助活動など



▲小学生の消防体験を指導する斉藤さん

「生まれ育った地域で人のためになる仕事がしたい」と思い、消防職員を選びました。助けを求めて119番通報する方の思いや信頼にお応えできるよう、訓練や研修を重ね、対応力向上を図っています。私は消防設備点検のための施設立入検査を行っていますが、万が一見落としがあると大災害につながりかねませんので、適切な検査・指導を心がけています。災害は一人ひとりの備えと初動が大切です。火元を離れないなど、身近なところから防災を意識し、1%でも生きる確率を高める行動をしていきましょう。」

担当業務
 傷病者の対応・医療機関への搬送、救命講習の指導など

“女性も活躍できることを 伝えていきたい”



救急担当
 じんぼうのか
 神穂乃夏さん

▲搬送者の心拍を測る神さん

「中学生の時に祖母が救急搬送され、間近で救急隊の活動を見たのがきっかけで救急の仕事に興味を持ち、救急救命士の資格を活かせる消防に入職しました。男性が多い職場なので体力面で大変ですが、普段から体力づくりに努めています。

対応した傷病者やその家族の方から『女性の隊員がいて安心した』と言ってくれ、これからも消防職員として・救急救命士として、知識・技術を磨き、女性も現場で活躍できることを伝えていきたいです。」

消防組合からの お知らせ ①



10周年記念誌を発刊しました

消防組合ホームページで公開しています。



救急フェスタを開催します

📅 9月9日(土) 10時30分～15時30分
 📍 アリオ鷺宮（太陽の広場・エコ広場）
 📌 消防音楽隊演奏会、車両展示、防火服等の着装体験、心肺蘇生法の実技体験等

地域の防災活動事例を紹介します。

事例01 南三丁目自治会自主防災会（久喜地区）

“つながり”を大切に



会長
 すがわらかずみ
 菅原一美さん

当地域では独り暮らしの高齢者が増えているほか、コロナの影響で人とのつながりが薄くなっています。何かあったときに安心して話ができる関係性を作ること…それが地域の助け合いにつながると考え、普段の散歩や地域の見守り活動の中で日常的に声を掛け合い、コミュニケーションをとるよう心がけています。

避難路を実際に歩いて作成した地域独自のハザードマップは、防災訓練などで活用しており、氾濫の危険性のある川も併せて確認しています。

ココがポイント！

独自のハザードマップ

看板やブロック塀など落下物や倒壊の危険性のある場所などを地図上にまとめ、**全世帯に配布**。

要配慮者支援の取り組み

区長や民生委員等と協力し、災害時に支援が必要な**要配慮者のリスト**を作成。

安否確認用リボン

災害発生時に安否を確認するためのリボンを**全世帯に配布**。



▲ハザードマップの一部。小学校への避難路における危険箇所を示している。



▲災害発生時、家族が無事で支援が必要ない場合は、リボンを玄関前に掲示する。

事例02 ウエストハイツ自主防災会（鷺宮地区）

楽しく“地域力”を



会長
 さいどうまさのり
 齊藤正範さん

実際に被災した宮城県を訪問し、安否確認シートの必要性や普段からの住民同士の交流の重要性を学びました。最初から防災、防災…ではなく、まずはお祭りや地域の行事、趣味の同好会など、自治会の活動を通じて人のつながりを作り、楽しく「地域力」を高めることが大切です。マンション内で洪水時の避難体制を整えるためにアンケートをとったとき、思いのほか住民の反応が良かったのも、普段から住民同士の交流が活発だったからこそだと思います。

ココがポイント！

独自の無線局

災害時の情報伝達手段として独自の無線局を整備。

洪水時のマンション内避難体制

1・2階の世帯を3階以上の世帯で受け入れられるよう水害時の避難体制を確立。**避難世帯と受け入れ世帯を全て具体的に結びつけ**、避難時には**備蓄品を持って避難**するよう呼びかけている。

要配慮者支援の取り組み

全世帯を対象にアンケートを実施し、災害時に支援が必要な**要配慮者のリスト**を作成。



▲災害時の心得や行動指針をまとめた独自のハンドブックを全世帯へ配布している。



▲マグネットの安否確認シートは防災訓練で必ず使用。効率的な安否確認を目指す。